

令和4年度第1回資金管理委員会議事録要約

[開催日時] 令和4年8月22日(月) 15時00分～17時00分

[開催場所] 兵庫県庁(WEB会議で開催)

[出席者(会長◎)]

- ◎ 甲斐 良隆 京都情報大学院大学教授
- 開本 浩矢 大阪大学大学院経済学研究科教授
- 藤原 賢哉 神戸大学大学院経営学研究科教授
- 水上 拓也 地方公共団体金融機構 地方支援部 参事
- 米田小百合 公認会計士

1 令和4年度民間資金の調達

- グリーンボンドは、これまで兵庫県債を購入しなかった投資家と対話するコミュニケーションツールになることが期待できる。
- 次回の委員会の際には、グリーンボンドの発行を踏まえた成果や課題等を整理し、提示されたい。

2 関連公社等の資金運用状況

- ここ10年、仕組債での運用を減らすなど、安全性を重視した厳格な資金運用に取り組んできた。そのおかげで、現状では透明性も高まり、安全性も一定担保されているなど、成果があがっていると言える。
- 一方、ほとんどの公社が預金等で運用しており、それ以外の運用が減少していることには、運用に対して若干消極的過ぎる印象も持つ。
- ただし、一気に他の運用手段を認めるのではなく、まずは資金運用に関する金融知識を十分に身に付ける必要がある。
- 併せて、今後の金融情勢の変化を踏まえた運用方針の姿についても、検討・準備を進めていってはどうか。